（４） だ い ず

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 紫斑病 *Cercospora kikuchii*	1.無病種子を用いる。 2.茎葉、莢カラなどを圃場に持ち込まない。 3.収穫調整後の茎葉、莢カラは堆肥にする。 4.結実期に雨が多いと発生が多くなる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●開花期の後 1.トップジンM水和剤は菌核病にも登録がある。 2.本病対象に銅剤で防除を実施しているところでは、葉焼病の発生が少ない。	播種前（種子粉衣）	M3・1	（混）ベンレートＴ水和剤２０
		播種前（塗沫処理）	M3 －・12・4	キヒゲンＲ－２フロアブル （混）クルーザーＭＡＸＸ
		開花期の30～45日後に２～３回	1 1 1 3 11 11 11 53 M1 M1 M1 M3 10・1 10・1 1・－	トップジンＭ水和剤 トップジンＭ粉剤ＤＬ ベンレート水和剤 プランダム乳剤２５ アミスター２０フロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ファンタジスタフロアブル フセキフロアブル クミガードＳＣ Ｚボルド－ フジドーＬフロアブル ペンコゼブ水和剤 （混）ニマイバー水和剤 （混）ゲッター水和剤 （混）スミトップＭ粉剤 このほか以上を含む混合剤
2 白絹病 *Sclerotium rolfsii*	1.連作を避ける。 2.排水を良好にする。 3.常発地では、麦わら、稲わら、その他の植物残さなど粗大有機物の投入を控える。 4.被害株は抜き取り、処分する。 5.圃場を１か月間湛水し、菌核を死滅させる。	播種前（塗沫処理）	－・12・4	（混）クルーザーＭＡＸＸ
		発病前または発病初期	14	リゾレックス水和剤
3 立枯性病害 立枯病 *Fusarium oxysporum* f.sp. *tracheiphilum* *Gibberella fujikuroi* 黒根腐病 *Calonectria ilicicola*	1.連作を避ける。			
4 茎疫病 *Phytophthora sojae*	1.連作を避ける。 2.病株を早期に抜き取り、処分する。 3.排水を良好にする。	播種前（塗沫処理）	－・12・4	（混）クルーザーＭＡＸＸ
		発病初期	M3・4	（混）リドミルゴールドＭＺ
5 葉焼病 *Xanthomonas axonopodis* pv. *glycinea*	1.健全株から採取した種子を用いる。 2.連作を避ける。	発生初期	U18 M1	バリダシン液剤５ Ｚボルド－
6 葉腐病 *Thanatephorus cucumeris*	1.雑草を繁茂させない。 2.密植を避ける。 3.排水を良好にする。			
7 べと病 *Peronospora manshurica*	1.健全種子を用いる。 2.罹病植物残さは圃場に残さない。 3.全身発病株は抜き取り、処分する。 4.密植や過繁茂を避ける。	発生初期	M3 M3 M3・4 27・11 27・40 27・M3 40・M5	ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 （混）リドミルゴールドＭＺ （混）ホライズンドライフロアブル （混）ベトファイター顆粒水和剤 （混）カーゼートＰＺ水和剤 （混）プロポーズ顆粒水和剤
8 斑点細菌病 *Pseudomonas savastanoi* pv. *glycinea*	1.排水を良好にする。			

だいず

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
9 アブラムシ類 （モザイク病 SMV BYMV AMV）	1.褐斑粒、モザイク病多発圃場の子実は種子に使用しない。 2.シルバーテープを張る。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アグロスリン乳剤はジャガイモヒゲナガアブラムシに登録がある。	播種前（塗沫処理）	4A･ー･ー	（混）クルーザーＭＡＸＸ
		播種時	4A	ダントツ粒剤
		発生初期	1B	マラソン粉剤３
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	トレボン乳剤
			3A	アディオン乳剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	ダントツフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			29	ウララＤＦ
10 カメムシ類	1.越冬場所となる圃場周辺の集積木材、落葉を除去する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.マルカメムシは他の害虫への薬剤散布で少なくなるが、特別に密度が高くなれば、茎葉、葉柄部によくかかるように薬剤散布する。 2.スミチオン乳剤、パーマチオン水和剤は、マメヒメサヤムシガにも登録がある。	着莢初期～子実肥大中期（２～３回）	1B	スミチオン乳剤
			2B	キラップフロアブル
			2B	キラップ粉剤ＤＬ
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	アディオン乳剤
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボン粉剤ＤＬ
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	ダントツフロアブル
			4A	ダントツ粉剤ＤＬ
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	アルバリン粉剤ＤＬ
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	スタークル粉剤ＤＬ
			4C	エクシードフロアブル
			1B･ー	（混）スミトップＭ粉剤
			3A･1B	（混）パーマチオン水和剤
				このほか以上を含む混合剤
11 タネバエ	1.有機物の多用を避ける。 2.早播きを避ける。 3.排水を良好にする。	播種前（塗沫処理）	4A･ー･ー	（混）クルーザーＭＡＸＸ
			ー	キヒゲンＲ－２フロアブル
		播種時	1B	カルホス微粒剤Ｆ
			1B	カルホス粉剤
12 ダイズサヤタマバエ	1.過度の密植は避ける。	開花期２週間後(着莢初期に２回)	1B	スミチオン乳剤
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボン粉剤ＤＬ
			4A	スタークル液剤１０
			1B･ー	（混）スミトップＭ粉剤
			3A･1B	（混）パーマチオン水和剤
13 フタスジヒメハムシ	1.連作を避ける。 2.越冬場所となる圃場周辺の落葉を除去する。	播種時	4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生期	3A	アグロスリン乳剤
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボン粉剤ＤＬ
			3A	アディオン乳剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	ダントツフロアブル
			4A	ダントツ粉剤ＤＬ
			4A	ダントツＨ粉剤ＤＬ
			4A	アルバリン粉剤ＤＬ
			4A	スタークル粉剤ＤＬ
			30	ブロフレアＳＣ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

だいず

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
14 コガネムシ類	1.幼虫の生息密度の高い圃場を秋耕する。 2.連作圃場では発生に注意する。 3.生わら等未成熟堆肥等の多用を避ける。	成虫多飛来期 (7月中旬 ～8月上旬)	1B 28	マラソン乳剤 ヨーバルフロアブル
15 ハダニ類	1.発生源になる周辺雑草や作物残さ等を除去する。	発生初期	10A	ニッソラン水和剤
16 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.老齢幼虫には効果が劣るので若齢期に防除する。	発生初期 (8月中旬以降)	3A 3A 3A 11A 15 15 18 18 22A 22A 28 28 28 28 28 30 UN 3A･1B	トレボン乳剤 トレボンEW トレボン粉剤DL ゼンターリ顆粒水和剤 ノーモルト乳剤 アタブロン乳剤 ロムダンフロアブル ロムダン粉剤DL トルネードエースDF ファイントリムDF フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル プレバソンフロアブル5 ヨーバルフロアブル ベネビアOD ブロフレアSC プレオフロアブル (混)パーマチオン水和剤
17 シロイチモジマダラメイガ	1.多肥栽培、密植栽培を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.スミチオン乳剤、パーマチオン水和剤は、マメヒメサヤムシガにも登録がある。	若莢期～ 子実肥大初期 (2～3回)	1B 3A 3A 1B･1 3A･1B	スミチオン乳剤 トレボン乳剤 トレボン粉剤DL (混)スミトップM粉剤 (混)パーマチオン水和剤
18 ウコンノメイガ	1.周辺雑草（アカソ、カラムシ）や作物残さ等を除去する。	7月中旬 ～8月中旬	1B 28 3A	スミチオン乳剤 ヨーバルフロアブル アディオン乳剤
19 ネキリムシ類	1.圃場内や周辺雑草を除去する。 2.株に被害があったときは、株元の土を浅く掘り起こして幼虫を捕殺する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.カルホスは、総使用回数に注意する。	播種時または 定植時	1B 1B	カルホス微粒剤F カルホス粉剤
		播種時～ 本葉2葉期	1B 1B	カルホス粉剤 ネキリエースK
		生育期 (5～7月)	3A 22B	ガードベイトA アクセルベイト
20 マメシンクイガ	1.連作を避ける。	8月	28 28 3A 3A 3A UN	ヨーバルフロアブル ベネビアOD アグロスリン乳剤 トレボン乳剤 アディオン乳剤 プレオフロアブル